

健康いばらき No.7 「新型コロナウイルス感染症について」

2020年9月 江原 孝郎（茨城県医師会常任理事）

令和2年8月26日（水）現在判明している新型コロナウイルス感染症についてまとめてみました。

■病原体

新型コロナウイルス感染症（病名：COVID-19）の病原体は、ウイルス名：SARS-CoV-2であることが判明しています。

■感染のしかた

感染経路：飛沫感染が主体で、咳・くしゃみにより飛び出た飛沫のウイルスが、目、鼻、口より体内に侵入します。

潜伏期間：1日から14日ですが、5日程度で発症する事が多く、発症2日前より発症後7日から14日程度、感染源になると考えられます。無症候の保菌者も多く新型コロナウイルス感染症封じ込みを困難にしています。小児患者から排出されるウイルス量は多いとの報告があります。

■症状

発熱や呼吸器症状、全身倦怠感等で発症します。感冒様症状が1週間前後持続することが多く、画像検査で肺炎像が明らかになります。高齢者や基礎疾患等を有する者は高リスク者です。妊婦さんも要注意です。

<最もよくある症状>「発熱」、「空咳」、「倦怠感」
<ときどきみられる症状>「関節の痛み」、「喉の痛み」、「下痢」、「結膜炎」、「頭痛」、「味覚、または嗅覚の消失」、「皮膚の発疹、または手足の指の変色」
<重篤な症状>「呼吸が苦しい、または息切れ」、「胸の痛み、または圧迫感」、「言語障害、または運動機能の喪失」

■診断

症状からは診断ができず病原体検査で確定診断されます。検査は、核酸増幅検査（PCR検査）、抗原検査によります。PCR検査の場合、喀痰、気道吸引液、肺胞洗浄液、鼻咽頭ぬぐい液（発症9日以内であれば唾液による検査が可能）等が用いられます。

抗原検査の検体は鼻咽頭ぬぐい液が使われます。

■治療

現時点で、有効な治療薬はありません。インフルエンザの治療薬やエボラ出血熱の治療薬で治験が行われている段階です。軽症者は治療をせずに治癒します。症状により酸素投与や人工呼吸器、体外式膜型人工肺（ECMO）が使用されることがあります。血栓を抑える薬やステロイド薬も試みられています。

■予防

感染拡大を防ぐためには、「こまめな手洗いや手指消毒」、「マスクの着用」、「人との距離の確保／セキエチケット」、「自分の目、鼻、口に触らない（ウイルスの侵入を防ぐ）」など、「**新しい生活様式**」を実践していただくようお願いいたします。



接触確認アプリ「COCOA」は、濃厚接触の疑いのあるアプリ利用者間の接触を検知、記録し、接触者から新型コロナウイルスの陽性者が発生したときに、その旨を通知するアプリです。

「いばらきアマビエちゃん」は、感染者が発生した場合に、その感染者と接触した可能性がある方に対して注意喚起の連絡をすることで、感染拡大の防止を図ることを目的としたシステムです。

いずれも、利用者が増えることで、感染拡大の防止につながることを期待されますので、自分をまもり、大切な人をまもり、地域と社会をまもるため、積極的な利用をお願いします。詳細は、厚生労働省、または茨城県のホームページをご覧ください。

最後に、冬にかけてインフルエンザと新型コロナウイルス感染症患者の増加は医療崩壊を招きかねません。インフルエンザ予防のためにインフルエンザワクチンの接種をお勧めします。

茨城県医師会ホームページよりダウンロードいただけます。

URL <http://www.ibaraki.med.or.jp/>

検索 「茨城県医師会」県民の皆様へ、健康いばらきをクリック！

